

吉田昇司の

ひと口

情報

第2号

ビジネス編

「人は毎日3種類の人格で暮らす」 (家庭は個人人格の息抜き場・もめて当然)

食事にでかけました。お店で出迎えてくれたのは若い女性でした。高校生でアルバイトだそうです。「すいぶん礼儀正しいですね」彼女は嬉しそうに微笑みました。両の頬にある縦の細いえくぼが気持ちだけ少し横に広がりを見せました。

《可愛いなあ》と思いながら尋ねました。「家でもそんなにニコニコしているんですか」とんでもないと言わんばかりに首を横に振りました。《そうですよね》と同意する雰囲気伝わったのでしようニコッと微笑み返してくれました。『今は仕事ですから』と暗黙の返事です。彼女は【仕事人格】でいま働いています。「仕事だからってそう無理しないで。マナーが崩れる

ときだったあるんだし」「そうはいきません。そんなことをしたら皆に迷惑をかけちゃうし。お店のイメージも傷ついちゃうし。」「そうだね」一所懸命頑張る彼女を【組織人格】が支えていました。では、彼女の個人人格はどの場面ですすのでしょうか。次を試みました。「気遣いで苦労するね」投げかけると「いいえ。お客様がお店に来てくださるだけでも大変有難いと思っています」。【仕事人格】【組織人格】を終えた彼女が家に戻りました。「あ～あ。今日は疲れた～」。どさっとソファに身を投げ出すと「行儀が悪いわよ。そんなことじゃ仕事、会社を首になっちゃうから」「だって今日へんな爺さんが来てさ。ああいうのが来ると疲れちゃうんだよね」「そんなこと言っちゃダメよ。来てくださるだけ有難いと思わなくちゃ」

「うるさいんだよ」【個人人格】。お母さんは家庭では個人人格なのですが家族のために3種類の人格を上手に使いこなして日々をまとめていると思います。



©越後湯沢YSS

吉田昇司の

ひと口

情報

第2号

プライベート編

「人と家は古くなる」 (生活スタイルで心豊かに)

人生は長生きの時代に入りました。「夫婦ふたりだけになり家も古くなって住みにくくなった」他にもさまざまなきっかけで家に手を入れる場合です。お住まいのリフォームは受注する側にもお客様にとっても難しい課題です。大手は信用力が高くでも実際建てるのは地元工務店という場合もあって家のリフォームに成功するか失敗するかは【誰に工事を依頼するか】によります。お勧めは《近所で仕事を長く続けている地元の工務店》《規模が小さめな工務店》むしろ《職人気質な社長の会社》を選ぶのが賢明でしょう。理由は「腕の良い職人気質を存分に使い切る」「詳細に打ち合わせして工事を安くあげさせる」。会社生活で部下を活

かして使ったように『口下手や多少のことには腹を立てず』相手に充分話をさせ現場見学会に参加をして工務店がお施主様とどんな会話を交わすか工事を観察しながら真実の在り処を識別します。小規模だと資金力が乏しいので長年に亘って【地元大手代理店】の後ろ盾で商品の仕入がしっかり確保されているかを確認します。工務店の規模が小さくても大手メーカーとの協働の姿勢があつて商品決定はカタログ説明だけでなくショールーム見学などで最終決定しましょう。もう一つのキーワードは「新築を建てられる技術」です。金額の張る大型工事に対応できるかどうか打合せで技術力を確認しましょう。過去の工事実績の説明は言葉だけでなく一軒一軒建てた家と一緒に見て回りましょう。最初の見積を安めに提出し受注後に追加工事で儲ける業者がいますから要注意です。家の工事を終え住んで再び互いの交流が始まるのが望ましい姿です。



©越後湯沢YSS